

乳幼児期手話言語獲得ネットワークについて

■開催日時

第1回 平成29年6月21日（水）

第2回 平成29年8月22日（火）

■構成メンバー（順不同）

- ・河崎佳子 神戸大学大学院教授
- ・大阪聴力障害者協会
- ・大阪府肢体不自由者協会
- ・サイレントボイス
- ・大阪発達総合療育センター ゆうなぎ園（愛徳福祉会）
- ・教育庁教育振興室支援教育課
- ・府立聴覚支援学校（主に早期相談支援）
- ・福祉部障がい福祉室自立支援課

■主な意見等

- 「こめっこ」の成果をPRする手法を考えていくべき。
- 「こめっこ」のノウハウ等の共有をより有効に図るためにも、それぞれの業務（現場）についても相互に知る機会を設定すべき。調整は大阪府においてされたい。
- 「こめっこ」の活動は、支援学校や療育機関などの各支援との両輪で進めていくもの。また、日本手話を押しつけるものではない。
- 「こめっこ」における、手話を通じた言語能力の発達等に関する研究を行う必要がある。継続的な調査が必要。
- 「こめっこ」を担当する新たな事務職員は、手話は当然ながら、保護者からの相談等に真摯に対応できる人材が必要。
- 保護者にとって聴覚障がいのある大人の話聞く機会は少ないので、ミニ講演で、学生等の体験談を紹介するのはとても良い。
- 保護者の手話学習ニーズは高いので、「こめっこ」の「手話（しゅわ）ろうタイム（※）」の時間をもっと増やすべき。
※グーとパーで覚える親子のコミュニケーションのための手話学習タイム

- 大阪聴力障害者協会は、社会人向けの手話講座を府から受託して取り組んでいる。保護者向けの手話講座は、その事業にも含まれるので、保護者の手話学習ニーズに応えることはできると思う。
- 保護者に手話を教えるのは、「こめっこ」スタッフなどの専門的なノウハウを持った人物に担当してもらわなければならない。
- 「こめっこ」の平日活動に対するニーズが高く、既に具体的なリクエストを頂いているところ。関係機関とも連携して進めていきたい。